

赤田 I 遺跡発掘調査概要(2)

—個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—

2006年3月

富山県射水市教育委員会

赤田Ⅰ遺跡発掘調査概要(2)

—個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—

2006年3月

富山県射水市教育委員会

序

射水市は富山県のほぼ中央に位置しています。市の北部は富山湾岸であり、南部はなだらかな射水丘陵を形成しており、その中間部に広大な射水平野の田園地帯が広がっています。

市域の中央部を南北に流れる下条川は、現在では改修されて直線的な流路となっていますが、昔はかなり蛇行し大雨時には浸水の被害も頻繁にありました。

このようなことから、下条川の流域は歴史時代には大きい集落の立地に必ずしも恵まれていなかったと思われますが、一方で水を得るには比較的適地であることから、すでに縄文時代をはじめそれ以降の各時代の遺跡が見られて、風土を巧みに活かした生活が展開されていたことが窺い知れるのであります。

この調査は、下条川右岸から約300m離れた赤田Ⅰ遺跡で行いました。

遺跡は、平成13~14年の土地区画整理事業に先立つ分布調査により新発見され、その後の調査で占墳時代と平安時代の二時期を中心とした複合遺跡である実態が少しづつ明らかになってきました。

平成17年度の調査は宅地部分4箇所で実施し、平成14年の調査で確認していた平安時代の祭祀（祓えの儀式）を執り行った溝の縁辺部を発掘したことによって、儀式を解明する手がかりを得ることができました。

本書は以上のような埋蔵文化財調査の成果をまとめたものであり、文化財保護について関心を深めていただくとともに、今後の研究を進めるうえで参考にしていただければ幸いです。

終わりに、現地調査及び本書の刊行にあたり、ご支援、ご協力をいただきました関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成18年3月

射水市教育委員会

教育長 竹内 伸一

例　　言

- 本書は富山県射水市一条地内に所在する赤田I遺跡の発掘調査概要である。
- 調査は個人専用住宅建築に先立ち、個人の依頼を受け平成17年10月末までの調査を小杉町教育委員会が、11月以降の調査は射水市教育委員会が実施した。調査費用については、射水市が国庫補助金と県費補助金の交付を受けた。
- 赤田I遺跡での発掘区呼称は、平成14年度から実施している本発掘調査からの通し番号とし、今年度調査箇所は10~13地区となっている。各地区の地番と現地調査期間及び面積は次のとおりである。
なお()内の地番は、区画整理時の仮換地番を示している。

10地区 一条11番15(11街区16番)	平成17年5月6日~5月26日(14日間)	敷地面積 236.70m ²	発掘面積 130m ²
11地区 一条12番15(12街区15番)	〃 5月10日~6月1日(16日間)	敷地面積 265.00m ²	発掘面積 143m ²
12地区 一条10番6(10街区6番)	〃 10月26日~11月9日(8日間)	敷地面積 231.30m ²	発掘面積 90m ²
13地区 一条10番4(10街区4番)	〃 11月8日~12月2日(12日間)	敷地面積 196.24m ²	発掘面積 79m ²
- 調査事務局は10月末までは小杉町教育委員会生涯学習課に置き、文化財保護係長 杉本一幸・主査 原田義範が調査事務を担当し、課長 村上欽哉が総括した。11月以降は射水市教育委員会文化課に置き、文化財係長 松下勝彦・主査 原田が調査事務を担当し、課長 川口武治が総括した。また、現地調査及び遺物整理から報告書刊行に至る室内作業は、原田と㈱中部日本鉱業研究所調査員 新谷輝久・藤田慎一が担当した。
- 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言と指導をいただいた。
また、発掘から報告書刊行に至るまで次の方々から協力を得た。記して深く謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
秋本信行・石田 真・金武和夫・金三津英則・栗山雅夫・境 洋子・田中 明・徳満秀隆・山内賢一
- 遺物図版の掲載写真は、西大寺フォト(杉本和樹氏)に撮影委託した成果品を使用した。
- 発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。(五十音順)

(現地調査) 石田哲雄・江口 實・大坪市雄・新保勝正・新保利恵・西川 精・林 純彦・庄上正美	船木藤夫・宝田紀代子・堀田 肇・前田明子
(整理作業) 金瀬ますみ・吉島正喜・闇 一美・堀笠実津子・吉沢泰子	
- 調査で得た図面や写真と遺物は射水市教育委員会で保管し、出土遺物には遺物名を次の略号で記入している。
赤田I遺跡: AD I-10(10地区) AD I-11(11地区) AD I-12(12地区) AD I-13(13地区)

凡　　例

- 本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 調査区の座標(世界地図系)は次のとおりである。

10地区: X5Y2=X79100Y-7070	11地区: X3Y6=X79070Y-7118	12地区: X3Y7=X79140Y-7050
13地区: X5Y3=X79150Y-7075		
- 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。SD:溝 SK:土坑 SP:柱穴及び柱穴状ピット SK:不明遺構
- 遺構図の縮尺は1/80、遺物実測図の縮尺は土器の1/4を基本とし、縮尺の異なる出土遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。
- 遺物実測図中の土器などの表現は次のとおりとした。

: 鉄軸	: 須恵器・珠洲の断面	: 石の断面
------	-------------	--------
- 土層図中の色調は、小山正忠・竹原秀雄編 2002『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社の表記を用いた。

目 次

I 遺跡の位置と歴史的環境	1
II 調査に至る経緯	3
III 調査の概要	7
1. 本発掘調査10地区	8
2. 本発掘調査11地区	10
3. 本発掘調査12地区	10
4. 本発掘調査13地区	13
〈引用参考文献〉	15

挿図目次

第1図 周辺の主な遺跡	2
第2図 調査地位図	3
第3図 発掘区位置図	6
第4図 10地区遺構図	9
第5図 11地区遺構図	11
第6図 12地区遺構図	12
第7図 13地区遺構図	14
第8図 10地区の出土遺物 SD02・03	16
第9図 10地区の出土遺物 SE01, 包含層	17
第10図 11地区の出土遺物 SD01, 包含層, 表探	18
第11図 12地区の出土遺物	19
第12図 13地区の出土遺物 包含層	20

表 目 次

第1表 一条(赤土地区)地内調査実施一覧	5
第2表 出土遺物観察表	21

写真図版目次

図版 1 10地区	23
図版 2 11地区	24
図版 3 12地区	25
図版 4 13地区	26
図版 5 10地区の出土遺物	27
図版 6 10・11地区の出土遺物	28
図版 7 12・13地区の出土遺物	29
図版 8 出土木製品	30

I 遺跡の位置と歴史的環境

赤田I遺跡は、富山県射水市(旧小杉町 平成17年11月1日周辺市町村と合併)・一条に所在する。射水市は富山県のほぼ中央部分に位置し、赤田I遺跡が存在する旧小杉町は、さらに射水市の中央に立地する。この地は北部に平野、南部には丘陵地を配し、それぞれ射水平野、射水丘陵と呼ばれる。

射水平野はおよそ1万~8千年前に形成された沖積層で、砂・粘土や疊などが堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が約1km後退して平野部は現在より広かったと考えられる。その後は繩文海進による気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭くなり、現地形で標高5m以下の旧小杉町は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化によって海面が後退し、河川などの上砂が堆積することでかつての海は小さく放生津瀬(現富山新港)として形を残すのみとなり、広々とした平野部が開けていった。赤田I遺跡はこのように形成された射水平野を流れる下条川右岸の平野部に位置し、戸坂地内付近からはじまる自然堤防の東縁辺に立地する。これらのことから遺跡は周辺より幾分標高の高い位置に立地していたと考えられる。

本遺跡の存続時期は古墳時代前期・奈良~平安時代、さらに中世・近世にまで及ぶ。これらの時代に該当する遺跡は周辺に多く分布する。特に本遺跡の過年度調査で遺物の出土量の多かった奈良~平安時代の遺跡の分布には、平野部に集落や祭祀遺跡が見られ、丘陵地には生産遺跡と一定の立地に傾向がうかがえる。

平野部では河川に近い地域で遺跡が分布し、特に北高木遺跡(荒畠遺跡)、南太閤山I遺跡、小杉伊勢領遺跡、黒河尺日遺跡、黒河中老田遺跡、HS-04遺跡が挙げられる。これらの遺跡の中で北高木遺跡(荒畠遺跡)からは、8世紀中葉~10世紀前半までの遺物が大量に出土した。遺物には、須恵器や土師器のほか、斎串・人形の木製形代や人面墨書き土器など祭祀行為に伴ったものも多量に見られ、周辺遺跡との性格において一線を画す様相を呈しており、越中守府の祭祀場ではないかという見解が述べられている(樋沢 2003)。また南太閤山I遺跡でも祭祀遺物や須恵器・土師器などが見つかり、なかでも中国の越州窯系青磁碗が出土した点は興味深いものである。この様な遺物の出土傾向は赤田I遺跡でも見られ、過年度の調査では大量の土師器塊・皿や祭祀遺物とともに、地方では中国産青磁と同様に希少品とされる尾張産や京都産の綠釉陶器が出上っている。

中国産青磁や多量の綠釉陶器は、都城以外では主に地方官衙などに出土例が多く、南太閤山I遺跡および赤田I遺跡が地方官衙と何かしらの関係があった遺跡であろうことは想像に難くない。地方官衙では都城の縮小版的な儀礼が行われていたことが想定され(古瀬 1991)、そのような儀式の器物に綠釉陶器などが使用されていた可能性が高いとされている(高橋 1997)。このことからこれら2遺跡は一般集落的な性格のものではなく、質や意図の違う祭祀行為が行われていた可能性も考えられる。

丘陵地では小杉流通業務団地内遺跡、小杉丸山遺跡、上野山遺跡、石太郎G~J遺跡、赤坂A~D遺跡、水蔵場A~D・H・I遺跡で製鉄関連や窯業などといった生産を中心とする遺跡が多数見られる。その数は窯業が39遺跡、製鉄関連が147遺跡を数え、県内最大規模を有する。いずれも須恵器生産の窯跡や鉄生産のための製鉄炉、炭焼窯、丁人の住居、作業場が多く見つかり、炉や登窯を築くのに適した傾斜のある地形と粘土・薪・水の供給源が豊富にあることが生産遺跡の場として好条件であったと考えられる。

(新宅)



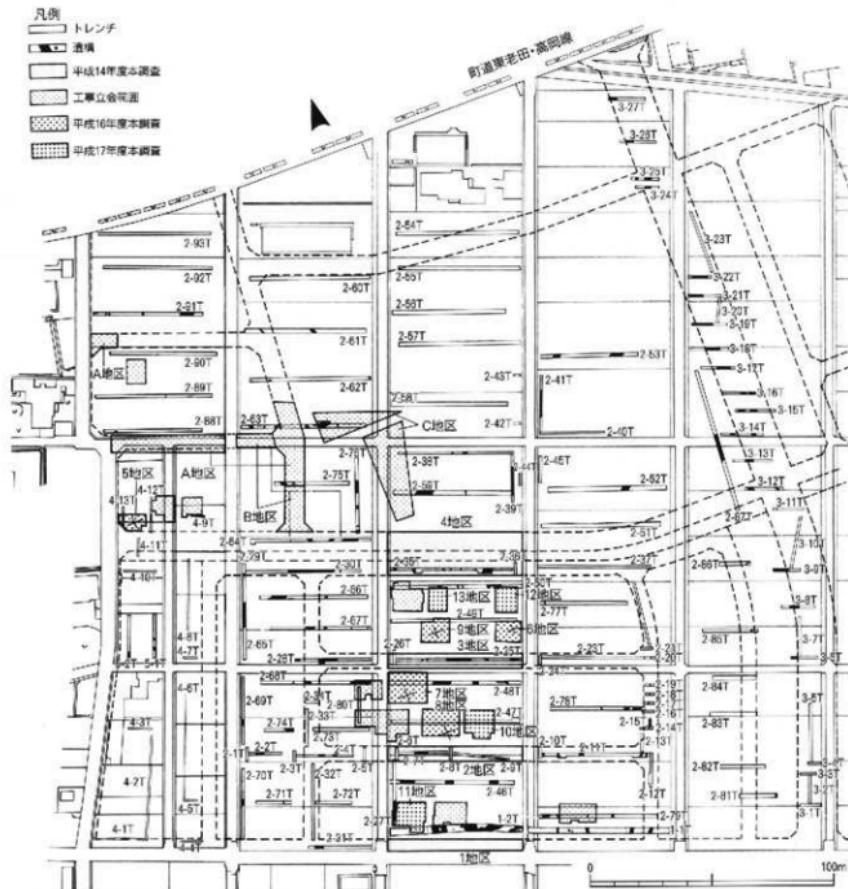
- ①赤田I遺跡 ②北高木遺跡 ③高木荒畠遺跡 ④南太閤山I遺跡 ⑤小杉伊勢帳遺跡 ⑥黒河尺目遺跡 ⑦黒河中老田遺跡
⑧HS-04遺跡 ⑨小杉丸山遺跡 ⑩上野南遺跡 ⑪石太郎G遺跡 ⑫石太郎I遺跡 ⑬石太郎J遺跡 ⑭赤坂B遺跡 ⑮赤坂C遺跡
⑯赤坂D遺跡 ⑰赤坂E遺跡 ⑱水蔵塚H遺跡 ⑲天池C遺跡 ⑳野田池C遺跡 ㉑赤坂道跡

第1図 周辺の主な遺跡 (1 : 50,000)

II 調査に至る経緯

平成13年8月9日、小杉町下条(赤田)地内の土地区画整理事業予定地約14haで、埋蔵文化財の有無を確認するための分布調査依頼が事業者から町教委に提出された。依頼地の南側では周知の埋蔵文化財包蔵地(赤田東遺跡)の存在は知られていたが、当該地は未踏査地であったため遺跡の有無は不明となっていた。

分布調査は9月下旬から10月中旬を日程に実施を予定していたが、他事業の対応で調査が遅れ、全城の踏査を終えたのは翌年の2月22日であった。踏査の結果、古墳時代及び古代の遺物が3箇所でまとまって見られ、4月以降に約3,800m²で遺跡の範囲確認の試掘調査を実施することになっていた。しかし、田植準備の始まる3月末までに行う造成予定地内の仮設用排水路敷設場所が試掘予定地の1箇所と重複していたため、掘削時に工事立会をすることになった。



第2図 調査地位置 (1 : 2,000)

立会の結果、古墳時代と古代の溝が確認され、遺物も良好な状態で遺存していたため、先の分布調査結果と勘案し、計画地の西側半分に当たる約7haで遺跡の範囲確認と今後の取り扱いを明確にするための試掘調査を進めることになった。

試掘調査は造成工事の優先箇所である道路予定地から開始し、宅地及び商業施設用地へと順次行っていった。

道路用地の試掘では、調査対象地のほぼ中央を北東方向に流れる幅4~5mの平安時代に築いた川跡を確認し、大量の土師器壺の完形品や祭祀関連の木製品が出土した。また、宅地部分では所々で古墳時代の土器と遺構が検出された。これらの結果を踏まえて、上地区画整理事業地内の遺跡の取り扱い協議を重ね、盛土保存・工事立会・積重工事の3区域を明示し、工事が遺構へ与える影響を判断しながら、随時調査を実施することになった。以下各年度の調査概要を記す。

平成13年度調査 分布調査は小杉町下条1092の2番地外155筆及び同町三ヶ2452の1外1筆の141,900m²を対象として、平成13年11月12日・12月12日・平成14年2月20日~22日の5日間で実施した。遺物の散布状況は、対象地南過半の西側で古墳時代から古代に至る土師器や古代の須恵器、中世から近世にかけての陶磁器類が見つかり特に古代の遺物が3箇所でまとまって採集できた。

工事立会調査は、区画整理事業地内(第2図 1-1T・1-2T、第1表 №1)を通す農業用仮設用排水路の掘削工事に伴い実施した。この調査で古墳時代の溝1条と平安時代の溝1条が確認されたため、引き続き発掘調査に入り記録保存措置を講じた。

平成14年度調査 試掘調査は事業地面積の約半分にあたる70,616m²を対象に3次に分けて実施した。

1次調査は道路予定地内(第2図 2-1T~2-45T及び3-1T~3-27T、第1表 №2)に試掘トレッチを設定し、2-7T・2-25T・2-36Tで北東から南北方向に伸びる平安時代の祭祀遺物や土師器の壺が多量に埋まっていた溝1条を確認した。

2次調査は宅地と商業施設敷地(第2図 2-46T~2-93T、第1表 №3)を対象に行い、北側では遺構や遺物が希薄であったが、西側を中心に古墳時代の遺構などが検出された。

3次調査は事業地西側の公園及び宅地予定地(第2図 4-1T~4-13T、第1表 №5)を対象に実施し、北側で古墳時代の遺構を確認している。

工事立会は道路用地(第2図 A・B地区、第1表 №6・7)と商業施設内の建物建築予定地(第2図 C地区、第1表 №8)で行い、B地区で古墳時代の土坑1基、C地区で同時代の溝1条と土坑1基を検出し記録保存措置を講じた。

本発掘調査は住宅地内の道路部分(第3図 1~4地)(第1表 №4)の4箇所で実施した。1~3区の調査では試掘調査で確認されていた平安時代の幅約5m、深さ1.5mの溝跡を発掘し、縄文陶器・土師器・須恵器・斎事など祭祀に用いられた木製品が多量に出土した。

平成15年度調査 試掘調査は過年度調査で最後まで未調査となっていた宅地部分(第2図 5-1T・5-2T、第1表 №9)で実施したが、時期不詳の溝3条とは堀柵備前の水路跡を確認している。

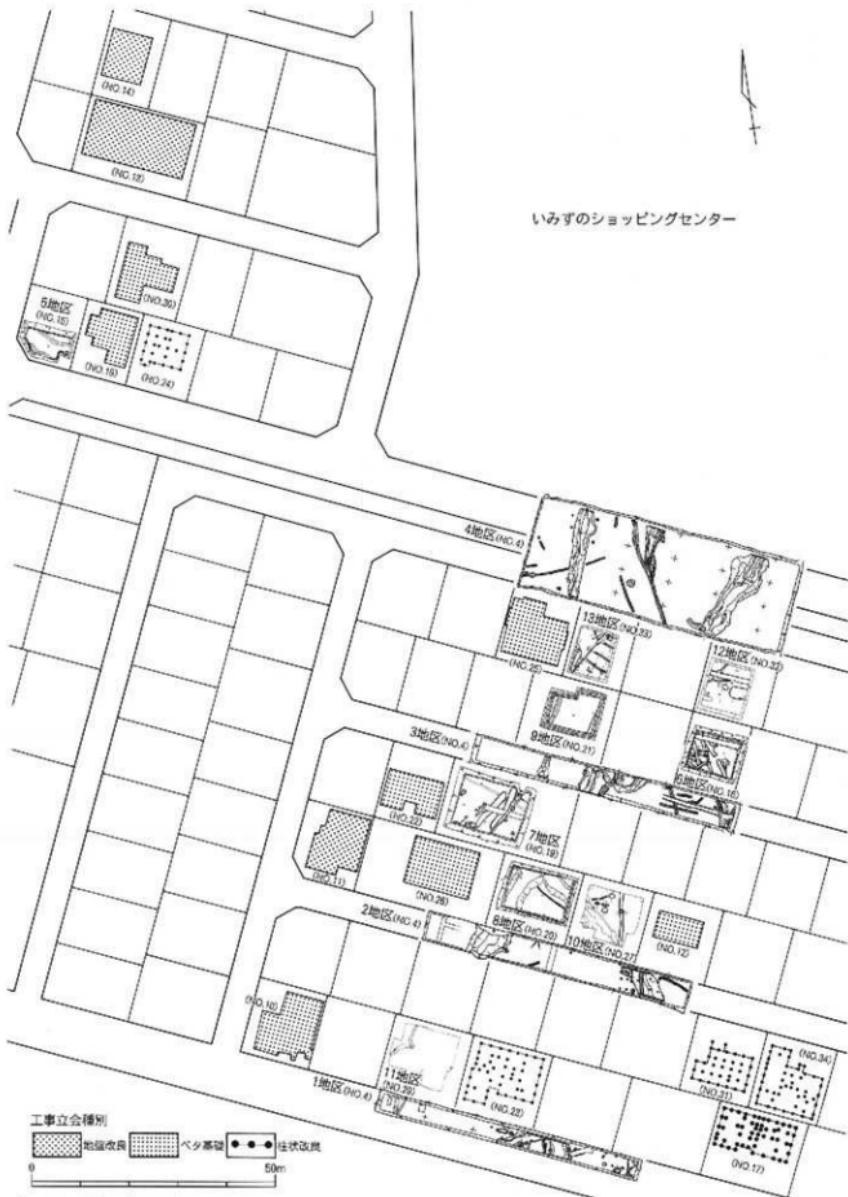
工事立会調査は宅地の4区画(第3図、第1表 №10~13)で実施した。№11・13区画は土壤改良のため、地表面下約1.1mと2.0mの深さまで掘削が行われたが遺構や遺物は検出されなかった。№10・12区画は造成盛土直下までの掘削で遺構確認面までの深さには達しなかった。このため№10区画では本発掘調査を実施していない。

平成16・17年度調査 本発掘調査は宅地の9区画(第3図 5~13地区、第1表 №15・16・19~21・27・29・32・33)で実施し、5地区では幅約4m、深さ0.4mの遺存状態良好な古墳時代の溝を検出し、8・11地区では同地内の道路敷きの調査で見つかっている平安時代の祭祀儀礼を執り行った溝跡を発掘し、完形の土師器壺や皿及び木製品などの遺物が大量に出土している。工事立会調査は15区画で実施し、№26区画は地下遺構に影響しない工法で建築が行われたため本発掘調査に至らなかった。

(原田)

No.	年度	所在地	開発用途	調査期間	調査の種類	対象面積	発掘面積	主な出土遺物
1	13	下条1284-1外	宅地	3.18~20 (延べ3日間)	工事立会	216m ²	216m ²	古墳:構 古代:唐
2		下条1092-2外	道路用地	4.17~5.10 (延べ10日間)	試掘	4,278m ²	802m ²	構
3		下条1092-2外	宅地 店舗用地	5.27~6.10 (延べ10日間)		61,556m ²	1,952.80m ²	構・土坑 整穴住居 自然流路 溝・土坑
4		下条1092-2外	道路用地	7.13~10.14 (延べ47日間)	本発掘	2,170m ²	2,170m ²	六块土 古墳:構 須恵器 縄文陶器、青磁 漆器、形代
5	14	下条1322	宅地 道路用地 公園用地	9.3~4 (延べ2日間)	試掘	4,166m ²	174m ²	溝1 土師器、珠洲
6		下条1309外5番	宅地 道路用地	9.18~20 (延べ3日間)	工事立会	616m ²	616m ²	土師器、須恵器 輪中瓶
7		下条1310外1番	道路用地	12.3~4 (延べ2日間)	工事立会	265m ²	265m ²	土師器、須恵器、珠洲 輪中瓶、青磁、白磁
8		下条1066	店舗用地	2.28 (延べ1日間)		2,017.24m ²	656.98m ²	構・土坑 土師器、須恵器
9		一条8番6~7	宅地	5.9 (延べ1日間)	試掘	457m ²	36m ²	構3 土師器、陶器
10		一条12番17	専用住宅	10.20 (延べ1日間)		232m ²	113m ²	
11	15	一条11番19	"	12.1 (延べ1日間)	工事立会	217.03m ²	123m ²	
12		一条11番14	"	3.22 (延べ1日間)		236m ²	21m ²	
13		一条5番8	"	3.29 (延べ1日間)		392m ²	153m ²	
14		一条4番2	"	4.30 (延べ1日間)	工事立会	227.92m ²	84m ²	
15		一条5番9	"	5.20~6.4 (延べ11日間)	本発掘	181m ²	64m ²	占填:構 土師器
16		一条10番13	"	6.7~16 (延べ8日間)		199.30m ²	108m ²	古代:構 須恵器、土師器 近世陶器、磁器
17		一条12番11	"	6.11 (延べ1日間)	工事立会	300m ²	64m ²	
18		一条6番8	"	6.16 (延べ1日間)		180m ²	82m ²	
19		一条11番3~4	"	9.28~10.28 (延べ15日間)		215m ²	207m ²	古墳:土坑・溝 古代:土坑・溝 珠洲
20	16	一条11番16	"	10.25~11.19 (延べ17日間)	本発掘	266.70m ²	165m ²	古代:構3 土師器、須恵器、木製島
21		一条11番15	"	11.18~26 (延べ5日間)		289.13m ²	112m ²	古代:構 土師器、須恵器、磁片 木製品、近世陶器
22		一条11番2	"	11.30 (延べ1日間)		312.66m ²	44m ²	
23		一条12番14	"	12.1~2 (延べ2日間)		265m ²	14m ²	
24		一条5番7	"	12.6~8 (延べ2日間)	工事立会	197.66m ²	8m ²	
25		一条10番3	"	12.14 (延べ1日間)		226.31m ²	131.53m ²	
26		一条11番17~18	"	12.18 (延べ1日間)		443.57m ²	136.34m ²	
27		一条11番15	"	5.6~26 (延べ14日間)	本発掘	236.70m ²	130m ²	古墳:構 古代:土坑・溝 須恵器、珠洲、越中瓶、口
28		一条1番1~2~3	店舗	5.6 (延べ1日間)	工事立会	1,337.87m ²	27m ²	
29		一条12番15	専用住宅	5.10~6.1 (延べ16日間)	本発掘	265m ²	143m ²	古代土師器、須恵器 珠洲
30	17	一条5番2	"	5.6 (延べ1日間)	工事立会	278.84m ²	92m ²	
31		一条12番7	"	6.30~7.2 (延べ2日間)		236m ²	71m ²	
32		一条10番6	"	10.26~11.9 (延べ8日間)	本発掘	231.30m ²	90m ²	須恵器 古代土師器、須恵器
33		一条10番4	"	11.8~12.2 (延べ12日間)		196.24m ²	79m ²	古代土師器、須恵器 輪中瓶
34		一条12番8	"	3.20~22 (延べ1日間)	工事立会	235.50m ²	31m ²	

第1表 一条(赤田土地区画整理事業地)地内調査実施一覧



第3図 発掘区位置図 (1 : 1,000)

III 調査の概要

本発掘調査の経過

試掘調査及び過年度の調査(平成14・16年度)の結果を受け、赤田土地区画整理事業地10～12街区における宅地部分について本発掘調査の必要性が検討され、平成17年5月6日～同年12月2日までの延べ50日間において合計4箇所(発掘調査面積442m²)で調査を実施した。調査区は平成14・16年度の本発掘調査に引き続いて設定され、10地区、11地区、12地区、13地区的順に随時調査を行った。前年度同様いずれの地区も造成工事により山砂の盛土がなされていたため、まず重機で盛土とロボット作業を除去し、その後作業員を投入して包含層掘削、遺構検出、遺構削除を行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影や遺構平面図作成などの記録・岡化作業を順次実施した。調査終了後は全ての地区で埋め戻しを行って現況復帰を図っている。

基本層序

各地区的基本層序はおおむねⅠ～V層に分層される。いずれの地区もⅠ層には山砂による盛土が約0.2～0.5m見られ、山砂の下層には0.2～0.8mの客土を盛土している。Ⅲ層は一部の地区で旧耕作土が0.2～0.3m確認でき、その下から遺物包含層が堆積し、遺構を検出した地山土に至る。10・12・13地区ではこの基本層序に準じた層序であり、田面から地山上までの深さは約1.2mであった。11地区では盛土厚がさほど無かったものの、遺物包含層と考えられるIV層が0.6mと厚く堆積し、田面から約1.6m前後で地山土に至った。

第Ⅰ層 山砂土(盛土)

第Ⅱ層 黒褐色粘質土(2.5Y2/1) 粘性強い、しまりやや強い、礫などを含む盛土

第Ⅲ層 灰色粘質土(5Y5/1) 粘性弱い、しまりやや強い、植物遺体含む、旧耕作土

第Ⅳ層 黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘性弱い、しまりやや強い、遺物包含層

第Ⅴ層 褐灰色粘土(10YR6/1) 粘性弱い、しまりやわらかい、ややシルトを含む、地山土

調査区概要

本年度の調査は、平成14・16年度の調査区に隣接する箇所であった。平成14年度調査の2地区と平成16年度調査の8地区に隣接する10地区、平成14年度調査の1地区に隣接する11地区、平成14年度調査の4地区と平成16年度調査の6・9地区に隣接する12・13地区を発掘し、地区間での遺構の関連を考慮し、調査を行った。

10地区は調査面積が130m²であり、地山面の標高は約5.4mをはかる。本地区からは8地区で確認されたSD02の続きを検出した(本地區ではSD03)。また井戸や土坑などを検出している。遺物は、古墳時代前期頃と考えられる遺物がSD03の底面附近でまとまって出土したのをはじめ、近世の遺物が溝や井戸の覆土中から出土した。

11地区は赤田1遺跡の南西側に位置する地区である。調査面積は143m²であり、地山面の標高は約4.9mをはかる。本地区からは2～4地区・8地区で確認されたSD01を検出した。この大溝SD01からは、過年度調査で平安時代の須恵器・土師器を中心に縁輪陶器や木製祭祀具などが大量に出土している。今回の調査では、過年度の調査で見られた遺物と同時代と考えられる土師器小壺が覆土中より出土している。

12地区は調査面積が90m²であり、地山面の標高は約5.4mをはかる。本地区からは溝を中心とし、少数の土坑を検出しているが遺物の出土は極めて少なく、遺構の時期特定には至っていない。

13地区は調査面積が79m²であり、地山面の標高は約5.4mをはかる。本地區からは遺構の配置に規則性が明確に認められる溝を検出したほか、土坑なども確認している。遺物は奈良～平安時代の遺物を中心に包含層中より出土したもの、遺構からのものは少なく遺構の時期特定には至っていない。

(新宅)

1. 本発掘調査10地区

(1) 造構 (第4図)

本地区は2・8地区に隣接する。造構は南北方向に走るSD02と2・8地区で確認したSD02の続きと考えられるSD03を中心に、井戸や土坑などを検出した。

SD02は調査区を南北方向へ横断し立地する。後述するSE01と重複関係にあり、SE01がSD02を切る形であった。確認できた範囲での全長は約11m、上幅約0.8mをはかる。

遺物は須恵器や越中瀬戸、木製品などが覆土から出土した。造構の時期は掘削深度が浅かった事から混入品の存在も十分考えられ明確な時期特定は難しい。

SD03は調査区を西から南へ斜めに横断する溝である。2・8地区で確認したSD02の続きと考えられる。全長は約8m、上幅約3.6mをはかる。深さは約0.4mほどであり、2地区や8地区で検出した溝の深さとはほぼ同一であった。溝内からは流木なども見られ、溝開口時にはある程度の流水が存在していた可能性も考えられる。

遺物は甕や高环などを中心に出上している。これらの遺物は溝底面付近で流木によって塞き止められた様な形で出土していた。時期は弥生時代後期～古墳時代前期頃の物が見られ、遺物の出土があった2地区でも同時期のものが見られた事から開口時期はこの頃のものと考えられる。

SE01は素掘井戸である。SD02を切る形で検出した。規模は幅約1m、深さ約1mをはかり、平面形はやや精円形を呈する。覆土は人為堆積であり、遺物は須恵器双耳瓶や木製部材や用途不明木製品などが出土している。

土坑は2基検出しているもののどの造構も浅い。遺物の出土はSK02から須恵器蓋片が出土している。(新宅)

(2) 遺物 (第8・9図)

遺物はSD02・03や包含層から弥生土器、須恵器、土師器、越中瀬戸、木製品、部材などが見られた。

弥生時代後期～古墳時代前期の土器 甕(1～7)、鉢(8・9)、壺(10)、不明(11)、高环(12～20)が出土している。1は頭部が屈曲し口縁部が段をなして伸張する。弥生時代終末期と考えられる。12は高环の環部で底部が直線的に開き、中位で外反し口縁端部が拡張する。弥生時代後期後半と考えられる。14は脚部が釣鐘状で脚が短く聞くものである。古墳時代前期と考えられる。18は平坦な底部から直線的に聞くもので、古墳時代前期の白江式段階と考えられる。これらの他の土器についても、おおむね弥生時代後期後半の法式から古墳時代前期の高昌式の様相を示している。

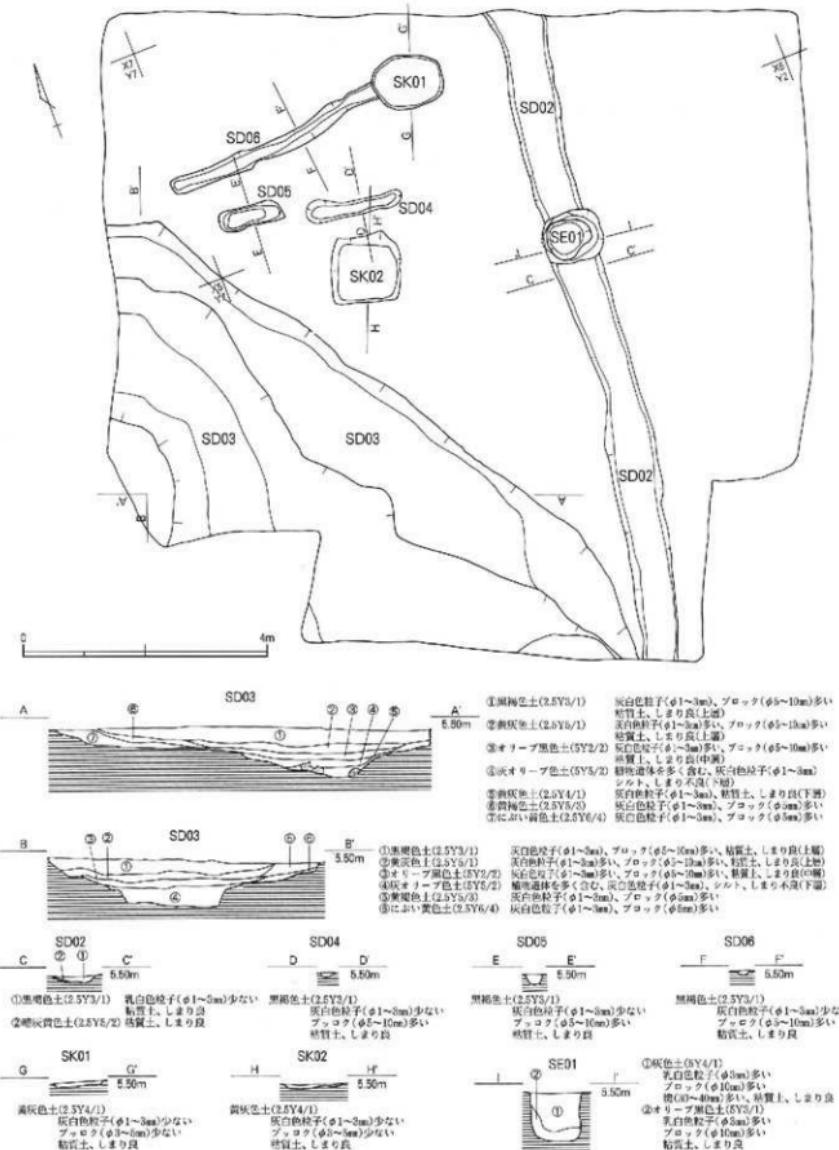
(藤田)

土師器 包含層より甕の口縁部片(43)が出土している。口縁端部は外斜し途中で折れ曲がる。

須恵器 蓋、皿B、甕などが出土している(21・22・28・44・45・46)。SD02からは平行叩き痕の残る甕胸部片(22)SK02からは蓋の天井部片(21)が出土した。SE01からは双耳瓶の耳の部分のみ出土している(28)。包含層からは皿B(44)が出土している。高台は比較的高く細い。端部は丸みを持つ。9世紀後半～10世紀初頭頃と考えられる。

越中瀬戸 SD02より皿(21・25)、壺(23)が出土している。24・25とともに見込みには印花文が施され、24には軸止めの段が見られる。釉薬は両方とも鉄釉で、内ハゲである。高台は二角形状に削りだしたものである。23は壺の口縁部で、内外面に鉄釉を施す。宮田編年II期頃(宮田 1997)と考えられる。

木製品 木製品はSD02とSE01より若干の製品とともに部材が多数出土している。SD02からの出土遺物は用途不明木製品(26)と円形板(27)がある。円形板の表面は丁寧な加工が施されており、側面に木釘孔などは見られなかった。SE01からは棒状木製品(29)、用途不明木製品(30)、杭(31～36)などが出土した。杭は先端部を粗く削って尖らせたものや、2方向のみ削った板杭状(34)のものなどが見られる。



第4図 10地区地形図 (1:80)

2. 本発掘調査II地区

(1) 遺構（第5図）

本地区は1地区に隣接する。検出した遺構は、過年度の調査で大量に土師器塊・皿及び縁輪陶器が出土したSD01である。遺構の大部分は、調査区域外への広がりが見られ、全体像の把握は出来なかった。大溝の底面での標高は約6m前後であり、北東から南西へ向かって低くなる傾向にあった。覆土の堆積は過年度の調査同様に人為堆積であり、遺物は第II層中から出土した。

試掘結果や隣接する1地区、さらに今回のII地区の状況から、SD01の遺物が集中して出土する箇所は赤田I遺跡でも比較的狭い範囲に限られる。祭祀行為ないしは焼棄・投棄行為が行われていた箇所は、ある一定の範囲内であった可能性も考えられる。

(2) 遺物（第10図）

土師器 SD01からは小甕(49)が出土している。ロクロ成形であり胴部外面下半にはヘラケズリ痕が残る。口縁部は緩やかに外斜し、途中で鈍く折れ立ち上がる。内外面ともに焼痕が見られた。9世紀後半以降のものと考えられる。

須恵器 SD01からは壺A、甕、壺類が出土した(51~53)。壺A(51)は底部片でロクロヘラ切りである。器厚は全体的に薄い。甕(52・53)は胴部外面にタタキ痕、内面には同心円文や平行線文の当て具痕が見られる。包含層からは壺B、鉢、甕などが川土した(57~59)。壺B(57)は底部片であり、高台は平行に接地し、腰はやや張り気味である。鉢(58)は2条の沈線が体部中位ほどに巡る。体部内外面ともにロクロナデが施され、胴部下半には手持ちヘラケズリが施されている。

珠洲 包含層から甕や擂鉢が出土している。甕は胴部片(60)などの外面にタタキ痕、内面には当て具痕が明瞭に残るものなどが見られた。擂鉢(62)は体部片で、脚目は巾太であり、器厚はやや薄いものであった。

陶器 遺構から擂鉢(54)が出土し、表採の遺物には天目茶碗(64)が見られた。擂鉢は体部小片でSD01からの出土である。脚目は中太であり流れ込みの遺物と考えられる。产地は不明である。天目茶碗は口縁部分であり、釉薬は内外面ともに黒釉を施軸する。

木製品 遺構から板材(55)が出土し、包含層からは用途不明材(63)が出土した。板材はSD01より出土した。片方は欠損し不明であり、もう片方は斜めに鋭く切断されている。両側は平坦に加工している。縦じて加工痕は確認できなかった。

3. 本発掘調査II地区

(1) 遺構（第6図）

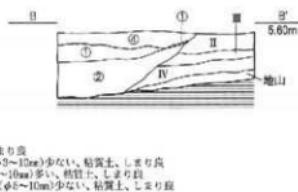
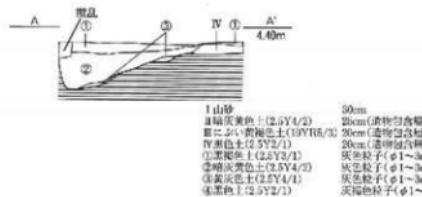
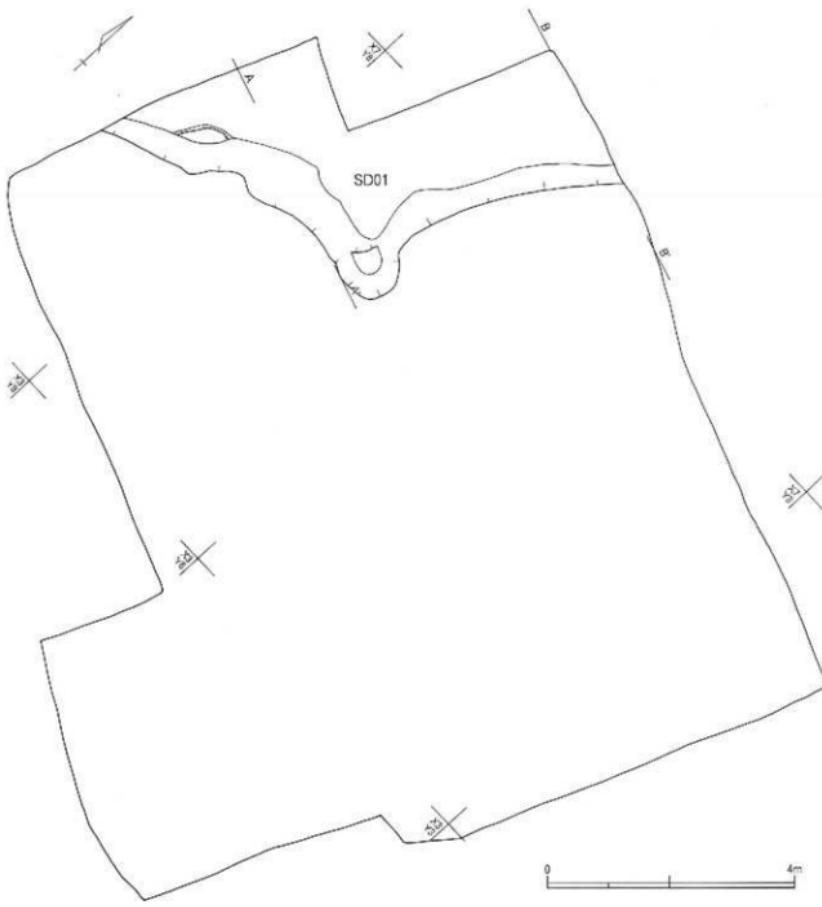
本地区は4地区に隣接する。検出した遺構は溝や土坑などである。

溝は大まかに北東-南西方向に走るものと、北-南方向へ向かうものの2種類が見られた。どの溝も深さはなく浅いものであった。遺物は出土せず、時期は不明である。

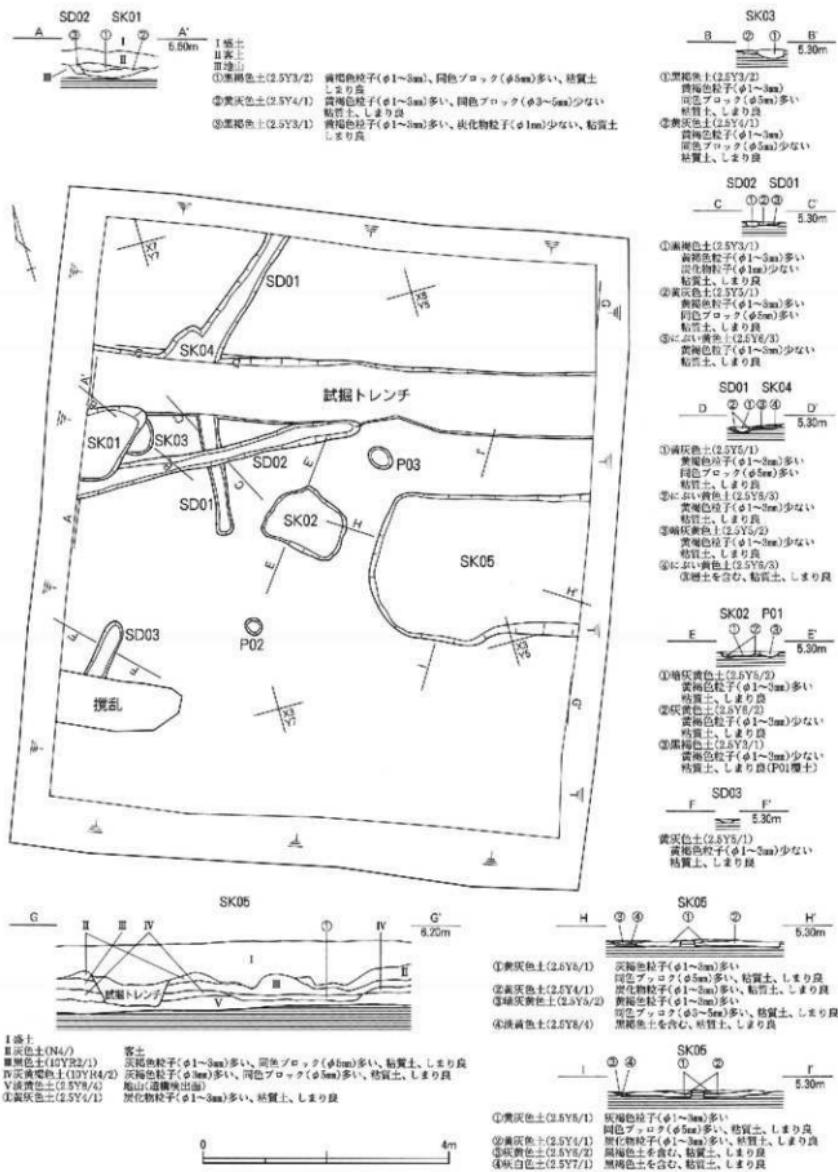
土坑は平面形が方形のものが多く、遺構の深さは浅い。検出した土坑の中で、特にSK05は規模こそ大きな遺構であったが深さはなく、底面は皿状を呈している。覆土は北西方向から混入している事が土層観察で確認できた。すべての土坑の覆土は自然堆積であった。遺物の出土は無かった。

(2) 遺物（第11図）

須恵器 包含層から壺B(65)が出土している。底部片で高台は平行に接地し、体部は丁寧なロクロナデが施されている。



第5図 11地区遺構図 (1:80)



第6図 12地区遺構図(1:80)

4. 本発掘調査13地区

(1) 遺構（第7図）

本地区は4・9地区に隣接する。遺構は溝を中心に土坑などを検出した。

溝にはその配置に一定の規則性が見られる。SD02～04まではその間隔が約2.5m前後をはかり、それらと直行するようSD01が北東～西南方向へ向かう。このSD01はSK05に切られSK01を切る。これらの溝から遺物の出土はないものの、その上面の包含層から須恵器の蓋や瓶類、さらに甕などの破片や土師器が比較的集中して出土した。

土坑は3基検出している。SK01は覆土の状況や遺構の配置などから推定すると、4地区のSD05と9地区的SD02に繋がる遺構とも考えられる。遺物の出土は最下層より須恵器環Bや土師器甕などの小片が出土している。SK03は平面形が方形であり、遺構の深さは約0.6mをはかる。覆土は自然堆積である。遺物の出土はなかった。

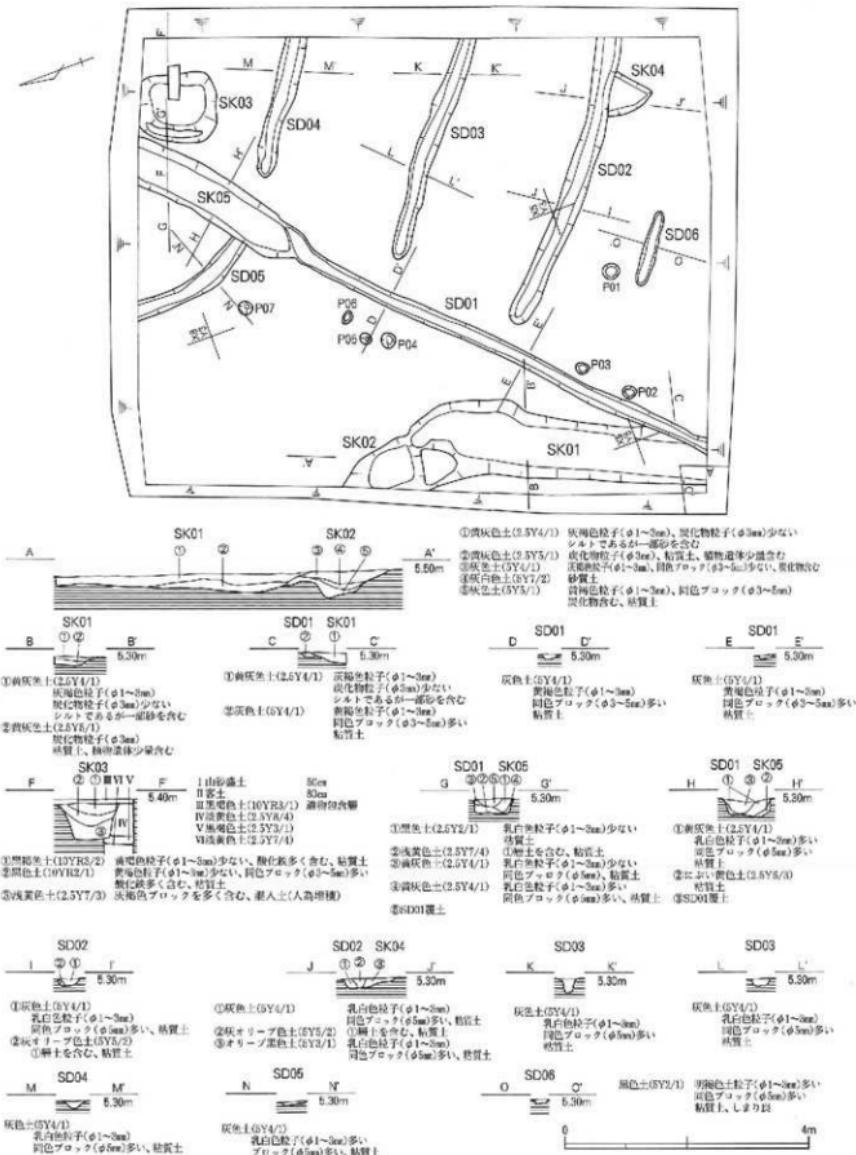
(2) 遺物（第11・12図）

土師器 SK01より甕(66)の口縁端部が出土している。口縁端部は外斜するものである。包含層からは塊と甕が出土している(70～78)。73は口縁端部のみのものであり巻き込む形であった。75は底部片であり、底部は摩耗のため切り離し痕などは不明である。体部はロクロナデを施している。

須恵器 SK01より环底部片(68)が出土している。高台は平行に接地し、体部は下半のみに丁寧なロクロナデが觀察できた。67は甕の頸部片である。包含層からは蓋、环A、瓶類、壺、甕などが出土している(79～92)。遺物の多くは小片での出土であった。蓋(79～82)は天井部にロクロナデが見られ、(81)の端部は丸く収まる形であった。环A(83)は底部の切り離し痕が明瞭ではないものの、ヘラ切りである。双耳瓶(86・87)は肩部のみの出土であり、凸帶が一条通る。胴部内外面ともにロクロナデが施されている。甕(93～96)は口縁部片や頸部片、さらに胴部片などが出土している。口縁部は端部が肥厚し、内面に段を設けるもの(93)や端部が肥厚するだけのもの(95)、また口縁部に対し直角をつくるもの(94)などが見られた。外面には波状文などの文様が若干見られた。胴部片の外面にはタタキ痕が見られ、内面には同心円文や平行線文などの當て具痕が確認できる。

陶器 SK01からは唐津と内野山の皿片(89)が出土している。見込み付近は蛇の目釉はぎであり、緑釉を施釉している。包含層遺物からは越中瀬戸皿の底部(110)が出土している。高台は削り出し高台であり、断面は三角形である。見込み付近には蛇の目釉はぎが施され、釉止めの段が設けられている。印花文などは見られず、鉄釉が施釉されている。宮田編年II期頃と考えられる。109は産地不明の鉢類片である。卸目などは見られず、内外面ともに鉄釉が施釉されている。口縁端部は玉縁状に肥大する。

（新宅）

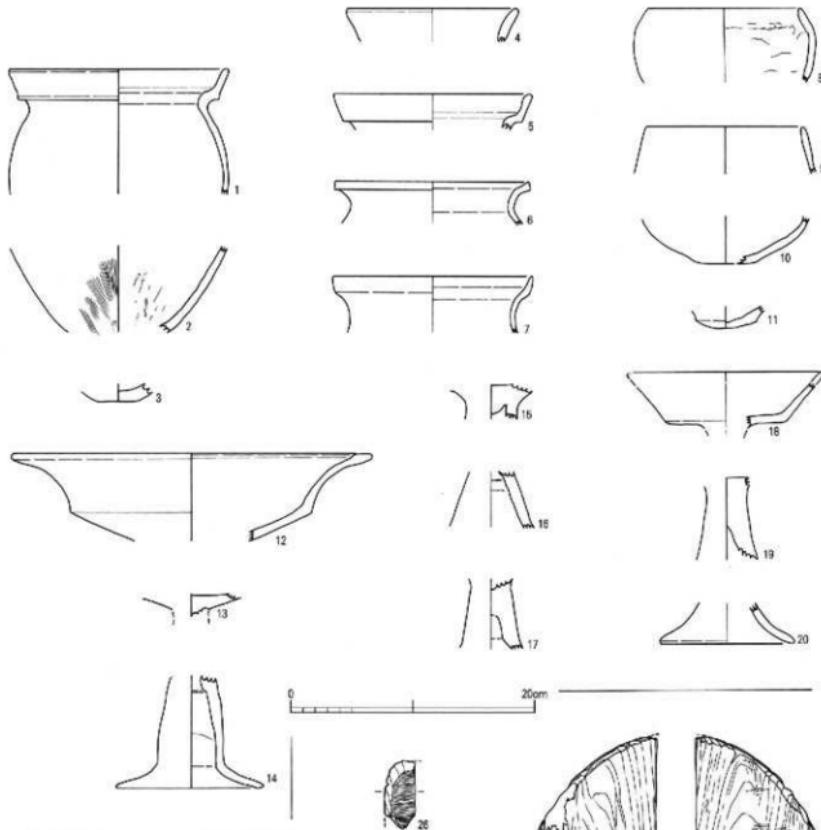


第7図 13地区造構図 (1 : 80)

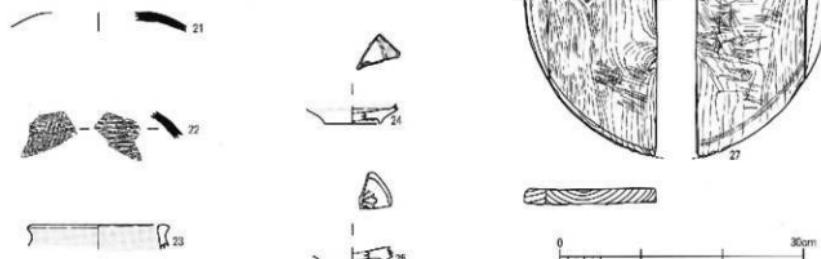
〈引用参考文献〉

- 青山晃、武田健次郎、内田並紀子 1999「越中における須恵器貯蔵具の様相」『北陸古代土器研究第8号』 北陸古代土器研究会
- 池野正男 1988「射水丘陵における9・10世紀の須恵器窯」『大塙12号』 富山考古学会
- 池野正男 2003「越中における古代前半の土師器食器について」『北陸古代土器研究第10号』 北陸古代土器研究会
- 石川県立埋蔵文化財センター 1986「漆町遺跡！」
- 内田並紀子 1997「越中における古代土師器の編年予察」「埋蔵文化財調査概要 平成8年度」 財團法人富山県文化振興財團
- 大島町教育委員会 1991「大島町荒畠遺跡発掘調査概要」
- 大島町教育委員会 1995「北高木遺跡発掘調査報告書」
- 金沢市教育委員会 1998「千木ヤシキダ遺跡」
- 金沢市教育委員会 1991「千木ヤシキダ遺跡Ⅱ」
- 小杉町教育委員会 2003「赤州I道跡発掘調査報告」
- 小杉町教育委員会 2003「赤州I道跡発掘調査概要(1)」
- 小松市教育委員会 1991「下津古窯跡！」
- 小松市教育委員会 1992「下津古窯跡II」
- 小松市教育委員会 2004「佐々木遺跡」
- 占瀬奈津子 1991「唐礼庶民に関する研究 地方における儀礼・儀式」『国立歴史民俗博物館研究報告第35集』
- (財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2005「吉吉B道跡発掘調査報告」
- (財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2006「任海宮川遺跡発掘調査報告」
- 佐賀県教育委員会 1996「内野山古窯跡」
- 高岡市教育委員会 1986「富山県高岡市美野下遺跡発掘調査概要」
- 高橋照彦 1997「出土遺物からみた平安時代の儀礼の場とその変化」『立歴史民俗博物館研究報告第74集』
- 富山県埋蔵文化財センター 1990「栗山須原遺跡 南中田A遺跡 任海鍊倉遺跡 南中HIC遺跡」
- 富山県埋蔵文化財センター 1991「南中田D遺跡発掘調査報告書」
- 富山県教育委員会 1985「南太崩山I道跡 都市計画道路七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(3)」
- 富山県埋蔵文化財センター 1996「任海宮川遺跡発掘調査報告書」
- 富山県埋蔵文化財センター 1997「任海宮川遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
- 富山県埋蔵文化財センター 1998「任海宮川遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
- 富山市教育委員会 1983「古沢A遺跡発掘調査概要」
- 富山市教育委員会 1987「長岡杉林遺跡－富山県富山市長岡杉林遺跡発掘調査報告書－」
- 富山市教育委員会 1998「富山市豊田大塚遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2004「富山市打山遺跡発掘調査報告」
- 富山大学人文学部考古学研究室 1989「越中上末窯」
- 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1993「貿易陶磁－奈良平安時代の中国陶磁－」 鹿川書店
- 婦小町教育委員会 2003「銀治町遺跡発掘調査報告」
- 北陸古代土器研究会 1997「シンボジウム 北陸の10・11世紀代の土器様相」
- 柳沢祐一 2003「越中國の律令墓葬具と官衙遺跡」『続文化財學論集』 文化財學論集刊行会
- 宮田進一 1997「第4節 越中瀬戸の変遷と分布」「中世の北陸」 桂文房
- 古岡康輔 1994「中世須恵器の研究」 吉川弘文館

SD03

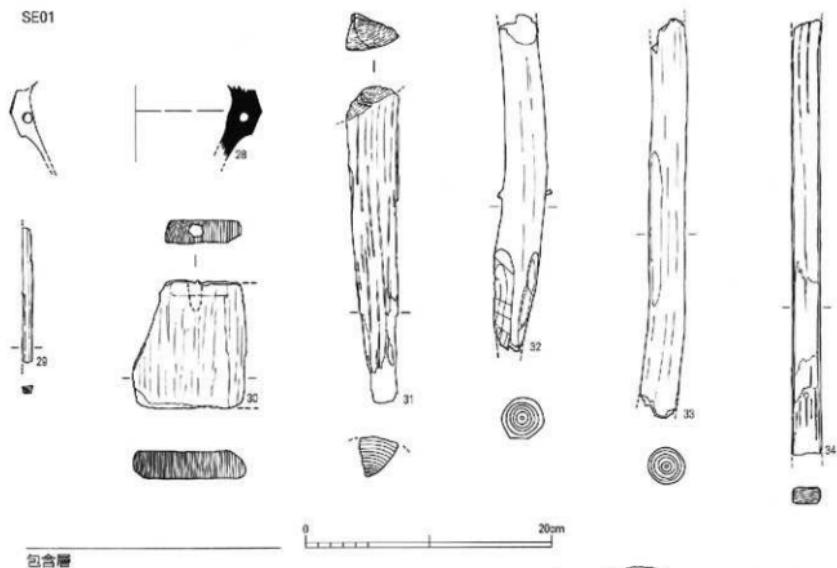


SD02

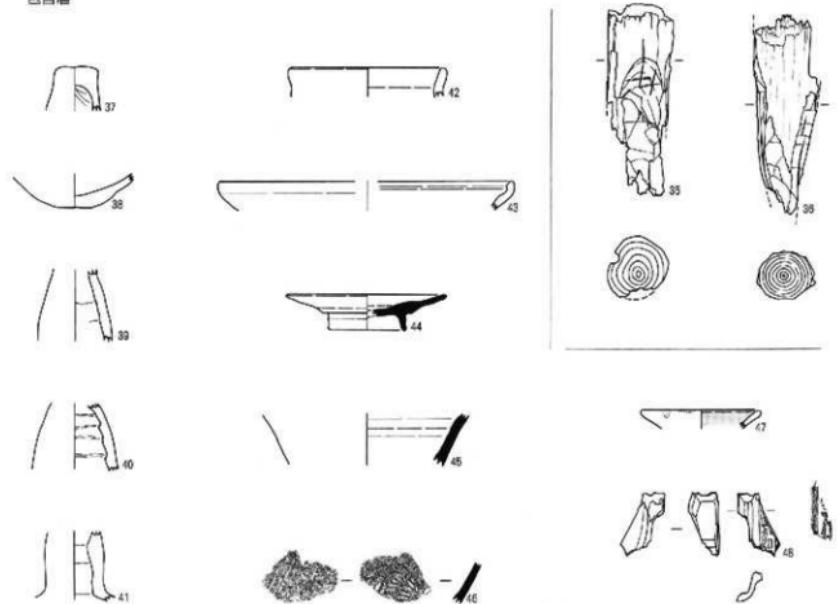


第8図 10地区の出土遺物 SD02・03

SE01

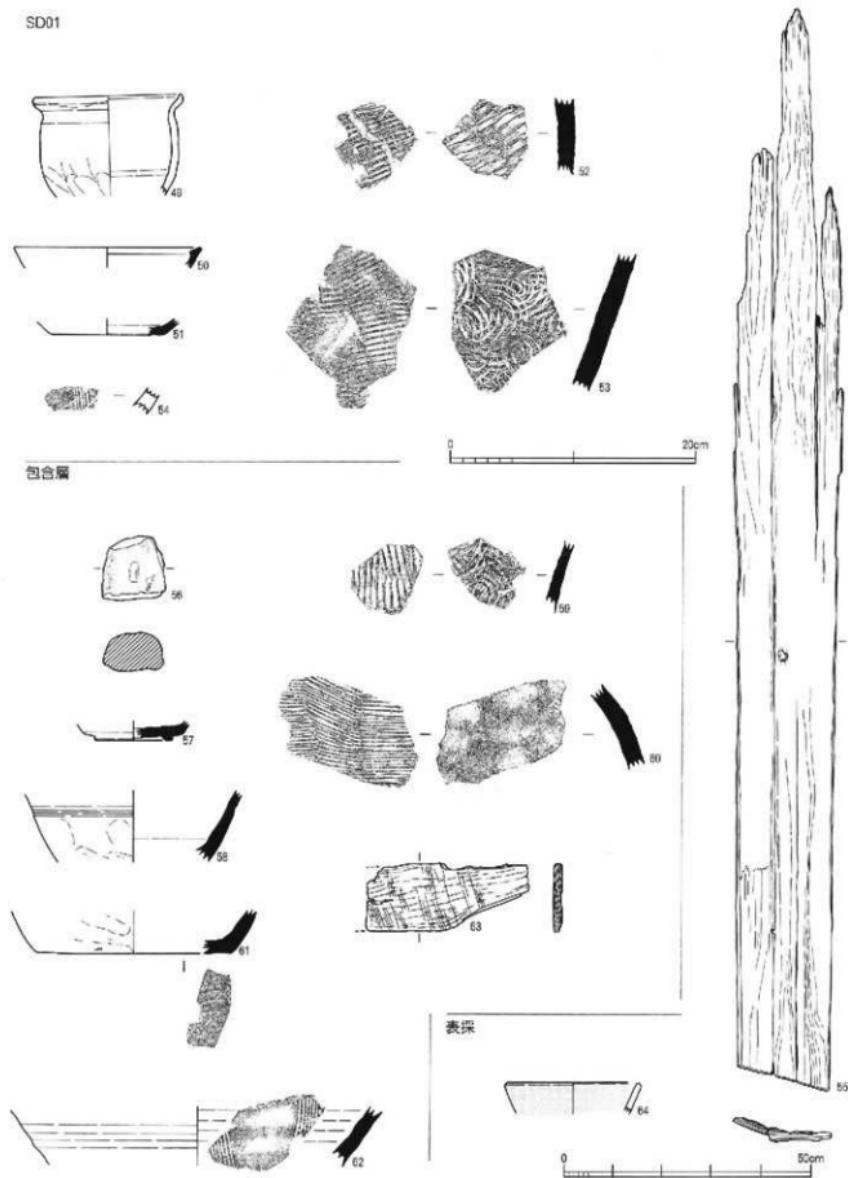


包含層



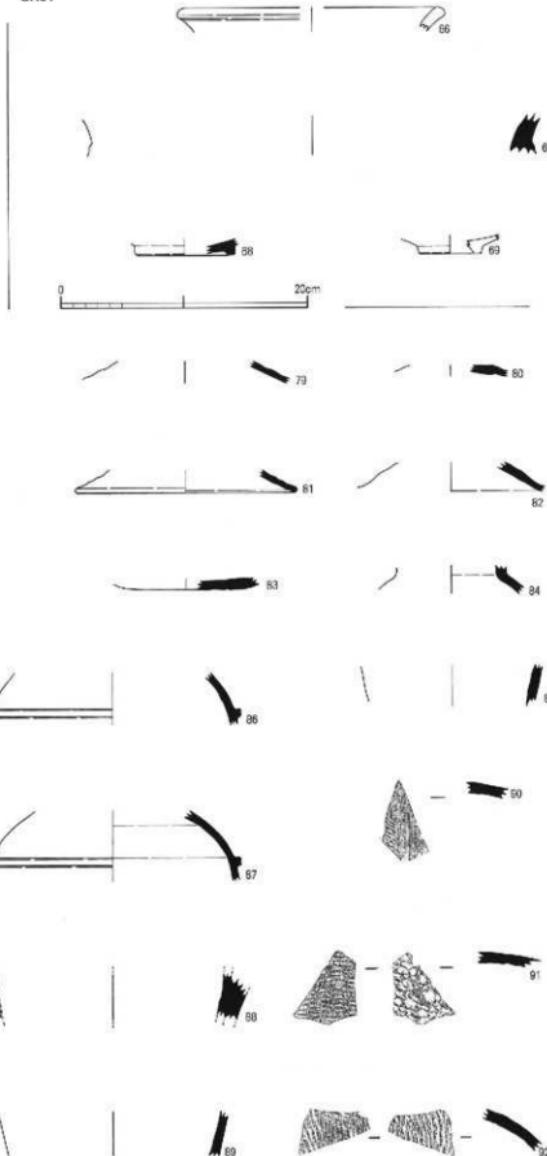
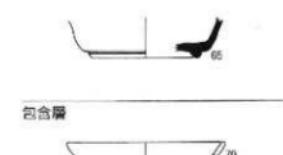
第9図 10地区的出土遺物 SE01, 包含層

SD01

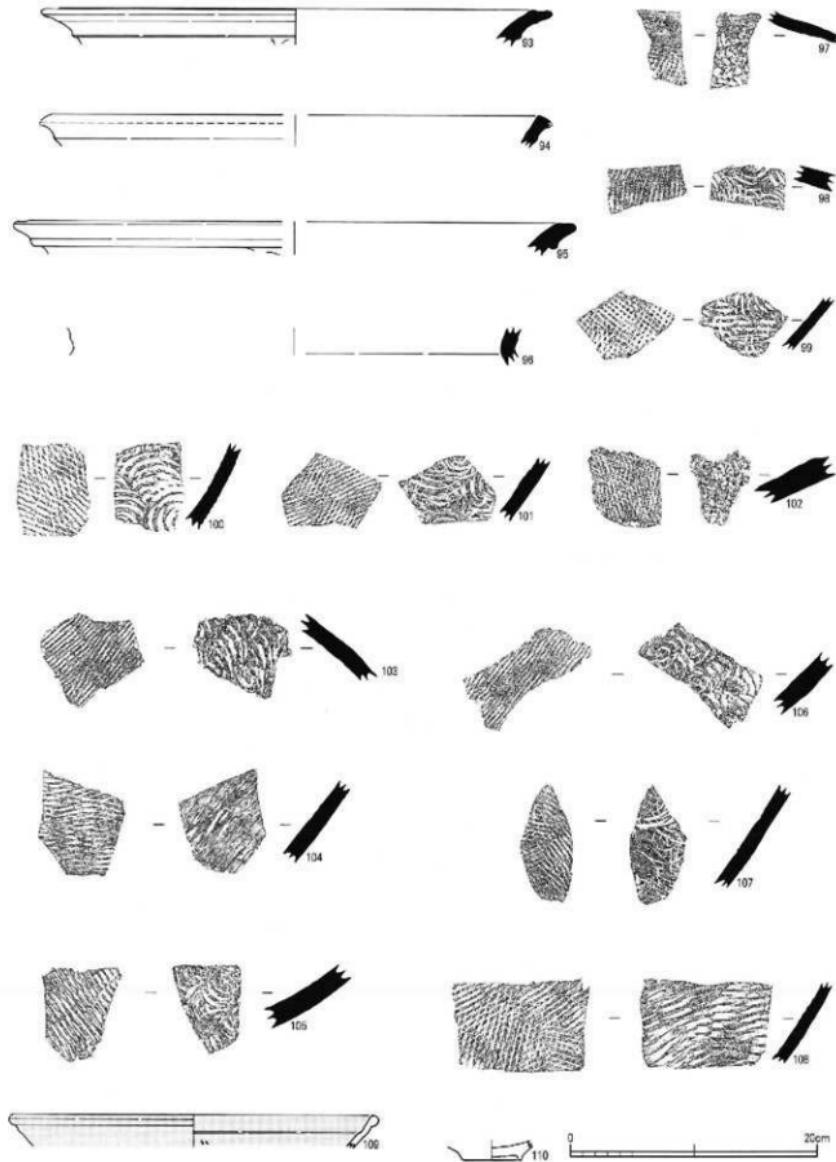


第10図 11地区の出土遺物 SD01, 包含層, 表採

12地区

13地区
SK01

第11図 12地区の出土遺物、13地区の出土遺物 SK01、包含層



第12図 13地区の出土遺物 包含層

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第8図	1	SD03 上層	弥生土器	甕	17.8				上半 1/2
	2	SD03 上層	弥生土器	甕				外面焼付着	破片
	3	SD03 上層	弥生土器	甕					破片
	4	SD03 上層	弥生土器	甕	13.7				口 1/8
	5	SD03 上層	弥生土器	甕	16.0				口 1/12
	6	SD03 上層	弥生土器	甕	15.8				口 1/4
	7	SD03 上層	弥生土器	甕	16.2				口 1/8
	8	SD03 上層	弥生土器	鉢	12.4				口 1/5
	9	SD03 上層	弥生土器	鉢	12.6			外面焼付着	口 1/8
	10	SD03 上層	弥生土器	釜					破片
	11	SD03 上層	弥生土器	高环		29.0			
	12	SD03 中・上層	弥生土器	高环					口 1/4
	13	SD03 上層	弥生土器	高环					破片
	14	SD03 上層	土師器	高环			脚径12.0		脚 2/3
	15	SD03 上層	弥生土器	高环					破片
	16	SD03 上層	土師器	高环					破片
	17	SD03 上層	土師器	高环					破片
	18	SD03 上層	土師器	高环					破片
	19	SD03 上層	土師器	高环					破片
	20	SD03 上層	土師器	高环			脚径10.8		破片
	21	SK02	須恵器	甕					破片
	22	SD02 横土	須恵器	甕					破片
	23	SD02 横土	越中漁戸		11.0			鉄輪	破片
	24	SD02 横土	越中漁戸	皿			4.4	鉄輪	破片
	25	SD02 横土	越中漁戸	皿			5.2	鉄輪	破片
	26	SD02	木製品	不明	5.5	2.5	0.8		
	27	SD02 上層	木製品		39.3	16.3	19.0		
第9図	28	SE01	須恵器	双耳瓶				胴上部に一つ穴の耳	破片
	29	SE01	木製品		11.0	0.8	0.6		
	30	SE01	木製品	下歎?	10.4	9.1	2.3		
	31	SE01	木製品	不明	25.9	4.2	3.3		
	32	SE01	木製品	杭	27.4	3.6	3.4	樹皮なし	
	33	SE01	木製品	杭?	32.5	3.1	3.0	樹皮なし	
	34	SE01	木製品		35.4	2.5	1.3		
	35	SE01	木製品	杭	15.6	5.2	5.1		
	36	SE01	木製品	杭	15.4	5.1	4.0		
	37	表土 排上	弥生土器	甕					破片
	38	X5Y7	土師器	壺・甕					破片
	39	X5Y7	土師器	高环					破片
	40	X5Y7	土師器	高环					破片
	41	表土 排上	土師器	高环					破片
	42	X5Y7	弥生土器	甕	12.0				口 1/8
	43	X3Y7	土師器	甕					破片
	44	表土 排上	須恵器	皿	12.4	2.9	6.0		口 1/8 底 1/4
	45	括	須恵器	長頸壺?					破片
	46	X3Y7	須恵器	甕				焼成不良	破片
	47	X5Y4 2層	越中漁戸	皿	9.4			鉄輪	破片
	48	表土 排上	丸質土器						破片
第10図	49	SD01 2層	土師器	甕	11.8			内外面焼付着	1/4
	50	SD01 上層	須恵器	鉢	15.0				破片
		XSY9 2層							
	51	SD01 2層	須恵器	甕					底 1/5
	52	SD01 上層	須恵器	甕					破片
	53	X6Y9 2層	須恵器	甕					破片
	54	SD01 上層	珠洲	片口鉢					破片
		X6Y8 2層							

第2表 出土遺物観察表

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第10図	55	SD01 上層	木製品		221.2	21.3	2.0	穴?	
	SD01								
	56	X6Y6 2層	石器	砥石?					
	57	X7Y4 2層	須恵器	壺			6.1		1/4
	58	X6Y8 3層	須恵器	鉢				2枚回線	破片
	59	X4Y8 2層	須恵器	甕					破片
	60	X6Y6 2層	珠洲	甕					破片
	61	X4Y8 2層	珠洲	甕			15.8		底 1/8
	62	X8Y9 2層	珠洲	片口鉢					破片
	63	X4Y6 2層	木製品	馬形?	13.1	5.5	0.7		
	64	排水			10.7			鉄輪	破片
第11図	65	トレンチ内	須恵器	壺			8.6		底 1/6
	66	SK01 最下層	土師器	甕					破片
	67	SK01 最下層	須恵器	甕					破片
	68	SK01 最下層	須恵器	壺			7.5		底 1/6
	69	SK01 埋下層					5.0		底 1/8
	70	X6Y3	上師器	壺	12.8				口 1/16
	71	X4Y4	土師器	蓋					破片
	72	X7Y5	土師器	甕	16.4				口 1/16
	73	X8Y6	土師器	壺	21.6				破片
	74	X7Y5	土師器	壺			4.6		底 1/4
第12図	75	X4Y4	土師器	壺			6.6		底 1/4
	76	X4Y5	土師器	壺			6.6		底 1/6
	77	X4Y4	土師器	壺			7.6		底 1/4
	78	X8Y5	土師器	壺			6.4		底 1/6
	79	X7Y6	須恵器	蓋					破片
	80	X8Y5	須恵器	蓋			4.7		底 1/8
	81	X4Y4	須恵器	蓋	17.6				口 1/12
	82	X8Y6	須恵器	甕					破片
	83	X7Y5	須恵器	鉢or甕			9.6		底 1/6
	84	X8Y6	須恵器	甕					破片
第13図	85	X8Y6	須恵器	甕					破片
	86	X8Y4	須恵器	双耳瓶					破片
	87	X4Y4	須恵器	双耳瓶					破片
	88	X7Y6	須恵器	双耳瓶					破片
	89	X6Y3	須恵器	双耳瓶					破片
	90	X3Y5	須恵器	横瓶					破片
	91	X7Y6	須恵器	横瓶					破片
	92	X5Y6	須恵器	横瓶					破片
	93	X5Y6	須恵器	甕				波状文の痕跡	破片
	94	X7Y5	須恵器	甕					破片
第14図	95	X8Y6	須恵器	甕				波状文の痕跡	破片
	96	X5Y5	須恵器	甕					破片
	97	X7Y5	須恵器	甕					破片
	98	X4Y5	須恵器	甕					破片
	99	X7Y5	須恵器	甕					破片
	100	X6Y3	須恵器	甕					破片
	101	X6Y3	須恵器	甕					破片
	102	X8Y6	須恵器	甕					破片
	103	X4Y4	須恵器	甕					破片
	104	X8Y6	須恵器	甕					破片
第15図	105	X7Y5	須恵器	甕					破片
	106	X6Y3	須恵器	甕					破片
	107	X5Y5	須恵器	甕					破片
	108	X6Y3	須恵器	甕					破片
	109	X7Y5	須恵器	指鉢				鉄輪	破片
第16図	110	X7Y5	城中廻戸	甕			4.6	鉄輪? 内面溝?	底 4/5



調査区全景（北東から）



SD03（南から）



SD03遺物出土状況（南から）



SD02（南から）



SE01（南から）



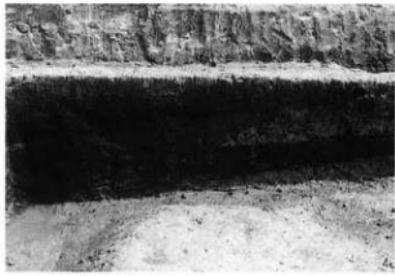
調査区全景（北東から）



SD01（北東から）



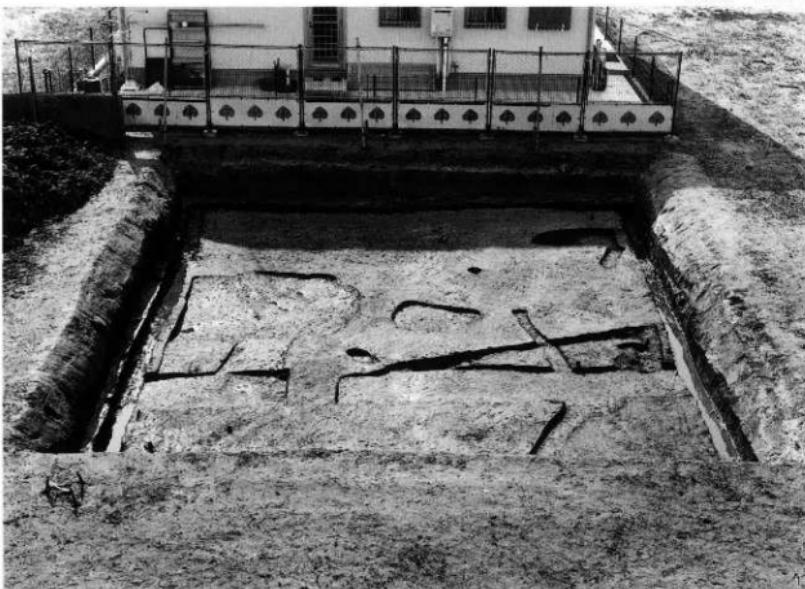
SD01遺物出土状況（東から）
3



SD01土層断面（南から）



作業風景



調査区全景（北東から）



SD01（南から）



SD02（東から）



SD02（東南から）

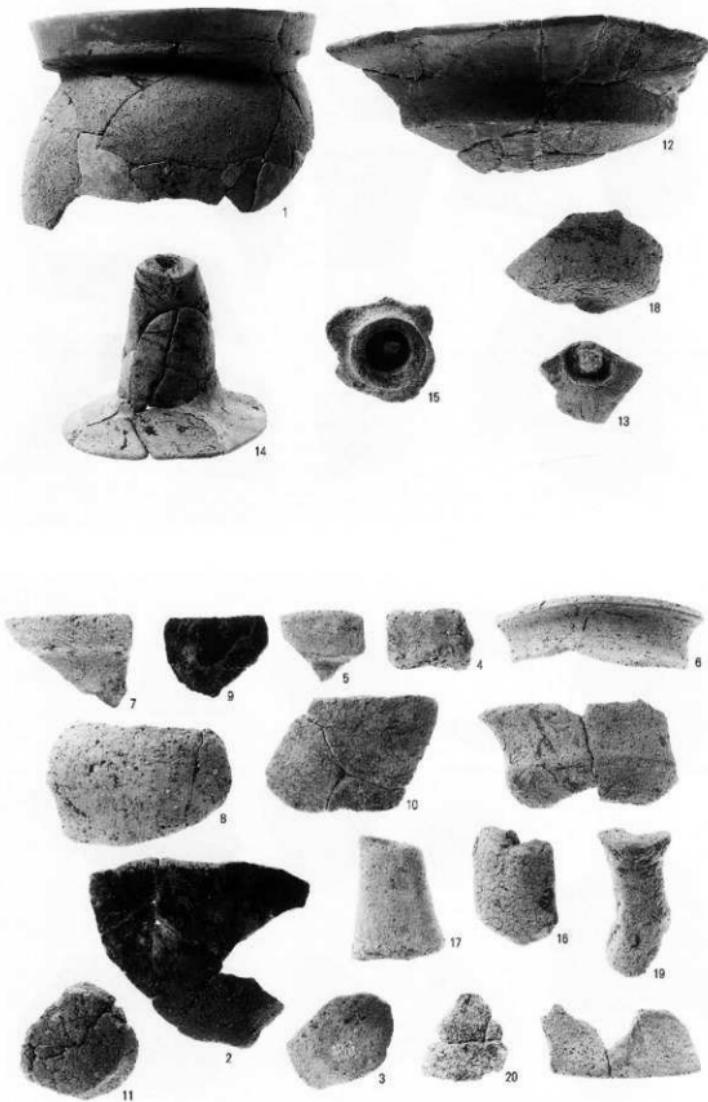


SK05（北西から）

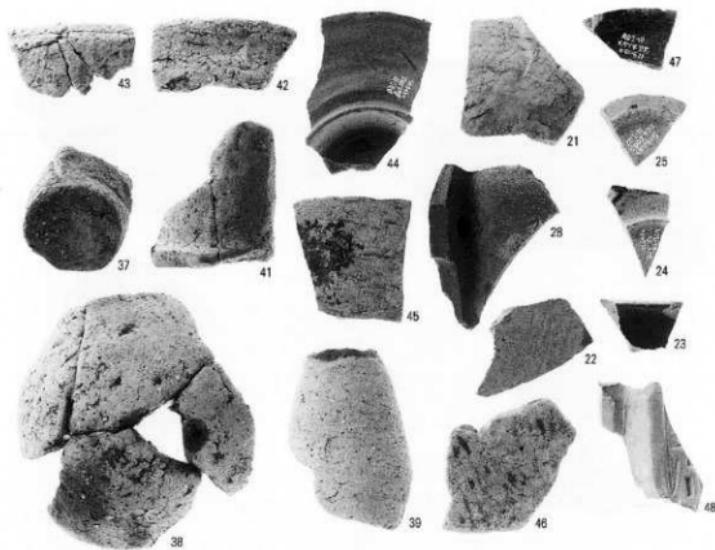


調査区全景（北から）

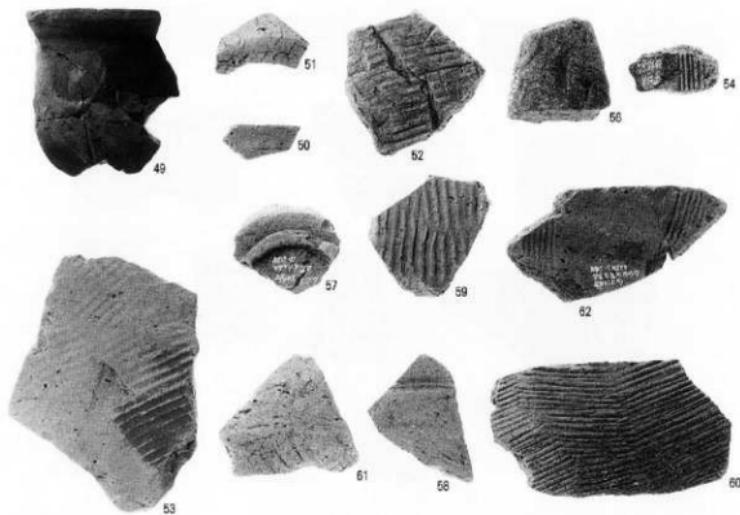




図版 6 10・11地区の出土遺物

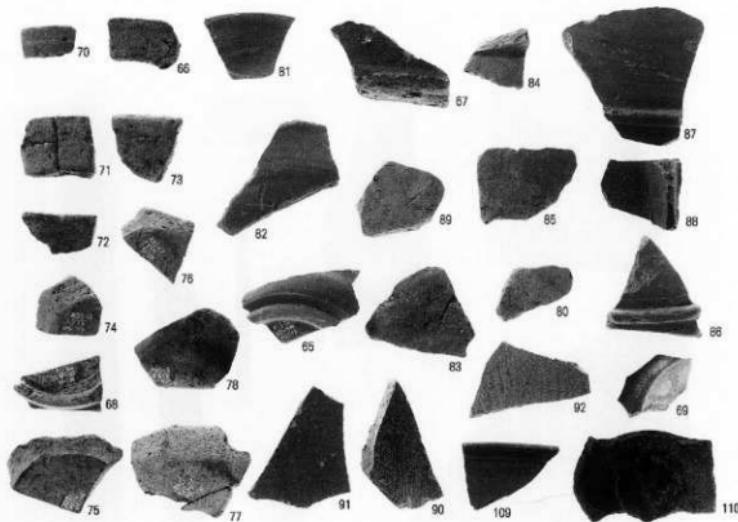


10地区

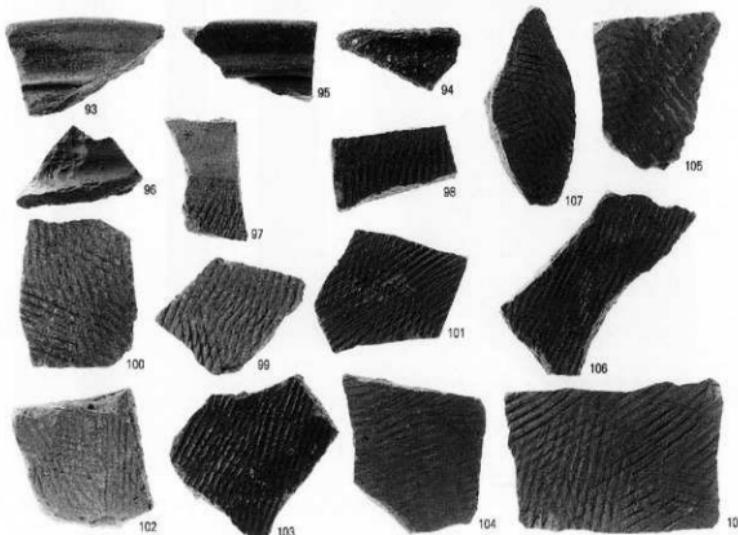


11地区

図版7 12・13地区の出土遺物

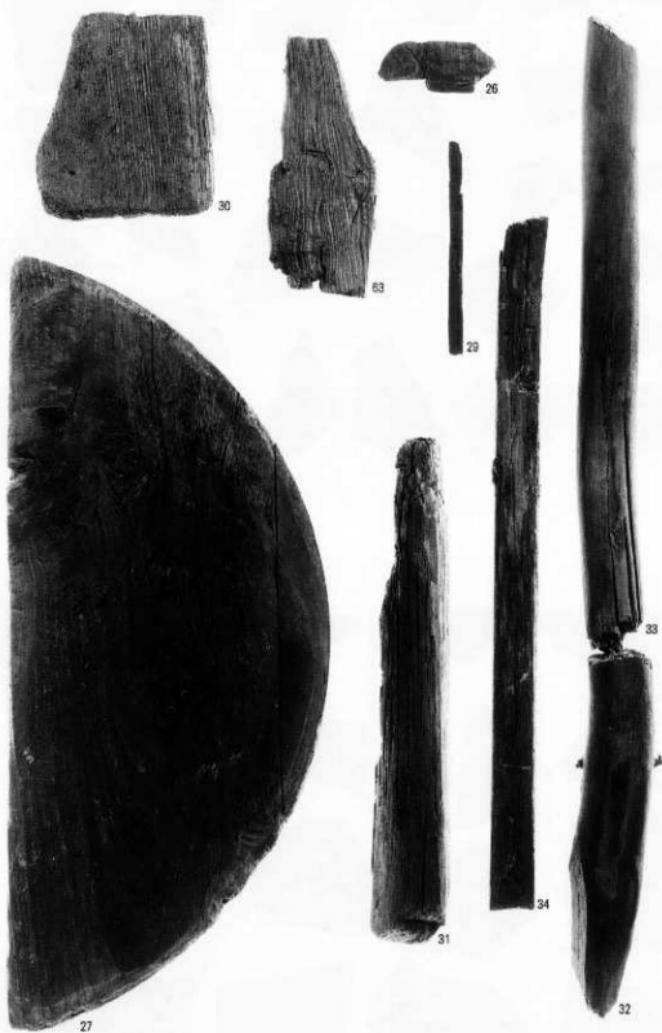


12・13地区



13地区

図版 8 出土木製品



報告書抄録

ふりがな 書名	あかんだいちいせきはっくつちょうさがいよう 赤田I遺跡発掘調査概要(2)							
副書名	一個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査一							
編著者名	原川義範(小杉町教育委員会・射水市教育委員会) 新宅輝久・藤田慎一(㈱中部日本鉱業研究所)							
編集機関	小杉町教育委員会・射水市教育委員会、㈱中部日本鉱業研究所							
発行機関	射水市教育委員会							
所在地	〒933-0292 富山県射水市加茂中部893 TEL 0766-59-8092							
発行年月日	西暦2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ○○○	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
赤田I 富山県射水市 一条		211 (381)	361 (301)	36度 42分 35秒	137度 05分 25秒	20050506~ 20050525 20050510~ 20050601 20051026~ 20051109 20051108~ 20051202	442	個人専用住宅 建築に先立つ 本発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
赤田I	散布地 集落 祭祀	弥生・古墳(前期) 平安	溝 土坑	弥生土器・土師器 須恵器・木製品・珠洲 越中瀬戸				

※コード欄の()内の数字は、合併前の富山県埋蔵文化財伝蔵地図の遺跡番号を示す。

平成18年3月31日発行

赤田I遺跡発掘調査概要(2)

—個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査—

編集 小杉町教育委員会・射水市教育委員会

佛中部日本鉱業研究所

発行 射水市教育委員会

〒933-0292 富山県射水市加茂中部893

TEL 0766-59-8092

印刷 南松本印刷

